製品情報

殺菌剤

パレード20フロアブル



殺菌剤分類	7

農林水産省登録	第24071号
有効成分	ピラジフルミド・・・・・・・・・・・20.0%
その他化管法該当成分	ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル（１種）1.0%
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）
有効年限	5年
包装	250ml×20本

特長

- 幅広い病害スペクトラムを有します
  菌核病、うどんこ病、灰色かび病等、幅広い病害に対し高い効果を示します。
- 適用作物への薬害リスクが極めて低く、使いやすい薬剤です
  幅広い作物で栽培期間を通して使用できます。また、多くの種類の作物で収穫前日まで使用できます。葉菜類にはセルトレイ灌注処理もできます。
- 効果持続性に優れます
  降雨の影響を受けにくく、また葉内への浸達性を有し効果持続性に優れます。

適用作物と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピラジフルミドを含む農薬の総使用回数
豆類（種実、ただし、らっかせいを除く） 豆類（未成熟）	菌核病 灰色かび病 うどんこ病（だいず、さやえんどう） 褐紋病（さやえんどう）	2000～4000倍	100～300ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	褐色輪紋病（だいず） さび病（あずき、さやえんどう）	2000倍					
トマト ミニトマト	灰色かび病 葉かび病 うどんこ病 菌核病 斑点病	2000～4000倍					
	すすかび病	2000倍					
なす	灰色かび病 すすかび病 菌核病 うどんこ病 黒枯病	2000～4000倍					
ピーマン及びとうがらし類	うどんこ病 黒枯病 灰色かび病						
きゅうり	灰色かび病 菌核病 うどんこ病 褐斑病 つる枯病						
ズッキーニ	灰色かび病 菌核病 うどんこ病 つる枯病						
にがうり	うどんこ病						
うり類（成熟）	うどんこ病 つる枯病（すいか、メロン） 菌核病（すいか、メロン）						
	うどんこ病	16倍	1.6ℓ			無人航空機による散布	
		20倍	2.0ℓ				
		32倍	3.2ℓ				
はくさい	黒斑病 白斑病 菌核病	2000～4000倍	100～300ℓ	収穫前日まで		散布	3回以内 （灌注は1回以内）
	菌核病	16倍	1.6ℓ			無人航空機による散布	
		20倍	2.0ℓ				
		32倍	3.2ℓ				
	苗立枯病（リゾクトニア菌） 菌核病	100倍	セル成型育苗トレイ1箱または、ペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当り0.5ℓ	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	
キャベツ	菌核病 苗立枯病（リゾクトニア菌） 根朽病						
	菌核病 株腐病 根朽病	2000～4000倍	100～300ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布	
	菌核病	16倍	1.6ℓ			無人航空機による散布	
		20倍	2.0ℓ				
		32倍	3.2ℓ				
	菌核病 黒すす病 根朽病	2000～4000倍	100～300ℓ			散布	
		16倍	1.6ℓ				

はなやさい類	菌核病 黒すす病					無人航空機による散布	
		20倍	2.0ℓ				
		32倍	3.2ℓ				
	菌核病 黒すす病 根朽病 苗立枯病（リゾクトニア菌）	100倍	セル成型育苗トレイ1箱または、ペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当り0.5ℓ	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	
なばな類	菌核病	2000倍	100～300ℓ	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内（灌注は1回以内、散布は2回以内）
		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または、ペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当り0.5ℓ	定植当日	1回	灌注	
レタス 非結球レタス	菌核病 灰色かび病 すそ枯病	2000～4000倍	100～300ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内（灌注は1回以内）
	白絹病	2000倍					
	菌核病 すそ枯病 白絹病	100倍	セル成型育苗トレイ1箱または、ペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当り0.5ℓ	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	
	菌核病 灰色かび病	16倍	1.6ℓ	収穫前日まで	3回以内	無人航空機による散布	
		20倍	2.0ℓ				
		32倍	3.2ℓ				
しょうが	白星病	2000～4000倍	100～300ℓ			散布	3回以内
にんじん	黒葉枯病 菌核病						
たまねぎ	黒腐菌核病	2000倍					
	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病	2000～4000倍					
		20倍	1.6ℓ			無人航空機による散布	
		25倍	2.0ℓ				
		40倍	3.2ℓ				
にんにく	黒腐菌核病	原液	種球重量の1%	植付前	1回	種球塗沫	3回以内（種球塗沫は1回以内、散布は2回以内）
	葉枯病	2000倍	100～300ℓ	収穫前日まで	2回以内	散布	
にら	白斑葉枯病	2000～4000倍			3回以内		3回以内
	白絹病 褐色葉枯病	2000倍					
ねぎ	黒腐菌核病	100倍	セル成型育苗トレイ1箱または、ペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ）当り0.5ℓ	育苗期後半～定植当日	1回	灌注	3回以内（灌注及び浸漬は合計1回以内）
		25～50倍	－	定植直前		5～10分間苗根部浸漬	
	黒斑病 葉枯病 小菌核腐敗病 小菌核病	2000～4000倍	100～300ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布	
	さび病 黒腐菌核病 白絹病	2000倍					
	黒斑病 葉枯病 さび病	20倍	1.6ℓ			無人航空機による散布	
		25倍	2.0ℓ				
		40倍	3.2ℓ				
いちご	うどんこ病 灰色かび病	2000～4000倍	100～300ℓ			散布	3回以内
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	2000倍	100～700ℓ				
		8倍	1.6ℓ			無人航空機による散布	
		10倍	2.0ℓ				
		16倍	3.2ℓ				

オクラ	うどんこ病	2000倍	100～300ℓ			散布	
花き類・観葉植物（ばら、きく、りんどう、ゆり、トルコギキョウを除く）	うどんこ病	2000～4000倍	100～300ℓ	発病初期	3回以内	散布	3回以内
ばら	うどんこ病 黒星病	4000倍					
きく	白さび病 うどんこ病	2000～4000倍					
	褐斑病	2000倍					
ゆり	葉枯病						
りんどう	黒斑病 花腐菌核病						
	褐斑病 葉枯病			発病前			
	うどんこ病	2000～4000倍		発病初期			
トルコギキョウ	うどんこ病 斑点病	2000～4000倍					

※本内容は2026年10月21日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

● 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
● 使用前によく振ってから使用すること。
● 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
● 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
● みずかけな（水掛菜）、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用後14日間は入水しないこと。
● 灌注で使用する場合には、次の注意事項を守ること。
・調製液をセル成型育苗トレイ又はペーパーポット上方から全体に行き渡るように灌注すること。また、薬剤の効果を十分に発現させるために、処理直前や直後の灌水はさけること。
・キャベツ又ははくさいの苗立枯病に使用する場合、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが他の病原菌による苗立枯病には効果が劣るので、リゾクトニア菌以外による苗立枯病の混発が予想される場合には他の有効な薬剤と組み合わせて使用すること。
・キャベツの根朽病に使用する場合、育苗期間中の感染が主であるため、育苗期間を主体に使用することが望ましい。
・レタスのすそ枯病に使用する場合、灌注処理での効果は生育初中期が主体であるため、その後の発生が予想される場合には他の有効な薬剤と組み合わせて使用すること。
● 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
・散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
・散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
・散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
・散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に被害を生じるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
・散布終了後は次の項目を守ること。
1.使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
2.機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
● にんにくの種球に塗沫する場合には、次の注意事項を守ること。
・使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
・薬剤が種球に均一に付着するよう処理した後、乾燥させること。
● 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
● 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項



- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

魚毒性等

浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

保管

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

© ISK BIOSCIENCES K.K.